

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577200896		
法人名	社会福祉法人 錦福祉会		
事業所名	グループホーム錦		
所在地	山口県岩国市錦町広瀬758番地		
自己評価作成日	平成26年6月25日	評価結果市町受理日	平成26年12月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年7月17日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○共同生活の形態で、家庭的で落ち着いた雰囲気の中で、個々の生活を重視し、利用者一人ひとりの能力に応じた援助や出来ることはやっていたり、自立を支援します。</p> <p>○地域の一人として地域の行事等に積極的に参加し、ボランティアや実習生の受け入れを行います。</p> <p>○法人の管理栄養士の助言を参考にして、毎日買い物に行き、新鮮な食材を選び三食とも食事づくりをしています。</p> <p>○利用者一人ひとりの思いや意向に合わせた支援をしています。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者の毎日の体温や食量、排泄の状態、水分量などの健康状態や、毎日の生活の様子や会話、職員への対応等の記録を「暮らしの様子」として毎月家族にお知らせしておられ、本人と家族の絆を大切にされながら共に本人を支えていく関係を築いておられます。火災や地震を想定したきめ細やかな防災マニュアルを作成され、利用者の服薬内容、家族の連絡先、職員の連絡網等を一冊のファイルにまとめられ、消防署や地域住民の協力を得て、年間を通じて利用者と一緒に避難訓練等を実施されたり、頭部保護用の座布団や居室から避難した事を知らせる赤色カードの設置や家具の転倒防止など日頃から災害に備えた取り組みをしておられます。職員が利用者の希望を取り入れた献立をたて、利用者と共に買い物に行かれ、できることを手伝っていただきながら、三食とも手づくりされ、利用者職員は一緒に食卓を囲んで楽しく食事をされています。管理者はミーティングを充実させて、職員が意見を言いやすい環境を整えられたり、やりがいや向上心をもって働ける環境づくりに努めておられ、職員全員で利用者の暮らしを支えておられます。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
58 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、生き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念と共に、事業所独自の理念を掲げ、ホーム内の目につく所に掲示し、理念の内容を職員会議でも確認をし合い、いつまでも自分らしさを持ち続けられるよう自立を支援しています。又地域との関係を具体的に示す事で、地域との交流を深めています。	法人の理念と共に職員全員で検討した事業所独自の理念を事業所内に掲示し、職員会議で確認し、共有している他、理念を基にした今年度の具体的な活動方針も共に掲示し、理念とともに実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の要介護度も変わり、地域の行事にも参加でき、近隣の高校でのお茶摘み、桜まつり、小中学校の運動会、地域のふるさと祭りに利用者の作品を展示したり、図書館に通い自分の本を選んで借りたり、ボランティアの受け入れをし、法人に来訪するボランティアの慰問にも参加し交流している。	利用者は、近くの高校でのお茶摘みや小中学校の運動会の見学などに出かけている他、図書館で本を借りたり、地域のお祭りに作品を出品したり、毎日スーパーや商店に食材の購入に出かけている。法人主催の盆踊り大会に参加して、屋台や打ち上げ花火などを楽しみ、地域の人と交流している。法人に来訪するボランティア(舞踊、法話会、演芸、手芸など)との交流、中高生の体験学習の受け入れや月一回のボランティアによるホットケーキを作る会などで交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での意見を活かし、地域からの要請で地域包括支援センターと協議で「認知症」をテーマに講師として出向き、寸劇等を交え認知症予防等について情報を発信をした。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義、考え方などを説明し、理解した上で、運営者、管理者、全職員を中心にして、評価に取り組んでいる。評価を活かして、具体的な改善に取り組んでいる。	管理者が評価の意義を職員に説明し、全職員に自己評価をするための書類を配布して記入してもらい、全職員で自己評価に取り組んでいる。ボランティアの受け入れの推進など、評価を活かして、具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、消防団方面隊長、地域包括支援センター、錦地域包括支援センター、職員、家族、福祉員連絡協議会会長、ビハラー山口顧問、錦福祉会福祉サービス委員、運営者が参加、2ヶ月に1回開催し、事業所の動向や活動報告をして意見交換を行っている。そこで出た意見を参考に事業所の行事に取り入れたり、意見をサービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況や活動の報告などをして、意見交換をしている。地域とのかかわりや馴染みの場所へ出かける事など、意見や提案をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の会議には積極的に参加し、包括支援センターとも連絡を取り、サービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議の他、地域包括支援センターの職員とは日頃より連絡を密に取り、電話や直接出向いて情報を得たり、相談して助言を得るなど協力関係を築いている。認知症の予防や対応についての地域への発信も協力し合って実施している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修参加や議員会議に於いてマニュアルに沿った内部研修を行い、職員同士が再確認を繰り返し取り組んでいる。玄関の施錠の弊害は全職員理解しているが、死角になる出入口を職員の手薄になる時間帯や配置状況により、やむを得ず施錠することもある。	マニュアルがあり、マニュアルに基づく研修で職員は正しく理解しており、身体拘束をしないケアを実践している。玄関は施錠していない。スピーチロックは職員同士が気をつけ、気になる言動は注意しあっている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	議員会議の中で虐待防止の研修を行い、適切なサービスが提供できるよう検討し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については、当ホームに於いて対象者がいないため制度活用の実態はない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や退去時に十分な説明を行い、理解、納得を得ている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話にて意見や要望を汲み取るとともに、運営推進会議に家族が参加することにより、意見等を伺う機会となっており、改善に結び付けている。また第三者委員設置や外部機関は明示しており、苦情処理の手続き等明確に示している。	相談や苦情の受付体制や苦情処理の手続きを定め、第三者委員や外部機関などと共に周知している。運営推進会議、面会時、電話などで家族の意見や要望を聞いている。意見や要望は記録し、職員会議で話し合い、運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務の中や連絡帳でも職員から意見を聞いているが、職員会議の前に一人ひとりから意見、提案、統一項目などの意見を提出してもらい、会議の議題を決め効率よく職員の意見を活かした会議を実施して、改善の必要な事案に対しては、早急に改善している。	管理者は職員会議や連絡帳などで職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中でも聞いている。毎月開催する職員会議では、事前に職員全員から意見や提案を提出してもらい、レジュメ化して配布し、職員の意見を活かした会議ができるよう工夫している。改善の必要な事案は早急に改善し、行事の提案など運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の評価表(能力開発カード)に基づき面接等を行い、法人の要求事項の到達度の評価や自己目標に対する進歩状況を評価することにより処遇に反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会を提供する他、法人内の研修にも積極的に参加し、研修内容は、議員会議で報告又は研修報告を回覧し全職員が共有するようにしている。	外部研修は職員に情報を伝え、希望や段階に合わせて参加の機会を提供している。受講後は職員会議で復命報告し、資料を閲覧して、職員間で共有している。法人研修に職員が参加している。内部研修は年間計画を立てて毎月の職員会議の中でテーマを決めて実施している他、急に発生した事案については必要の都度研修やミーティングで対応しているなど、働きながら学べる様に支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡会及び岩国市地域密着型サービス事業所との交流により、サービスの質の向上をさせるための取り組み、実態を具体的に学ぶ機会を作りにしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が安心できるような話には真剣に耳を傾けている。また、行動に対しても肯定的な姿勢で受け止めるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の現状を事前に見学してもらい、細部に渡り包み隠さず情報を提供し、疑問点等については申し込み時並びに随時電話や面会時等で説明を行うように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅ケアマネ等に相談し、必要な情報等を入手して支援に繋げている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を心がけ、掃除、洗濯、調理、花の水やりなど、出来るところは自身でやっていただき、出来ないところを援助し、三食の食事を共にするなど、1日を一緒に過ごす事で関わりを築き、お互いを思いやることを学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、家族に暮らしのご様子で日々の報告をし、協力していただくよう努め、行事がある時には事前に家族に連絡し、参加していただけるよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりの生活習慣をお聞きし、長年住み慣れた地域を訪問(行事等)するなど個々の対応もしている。又家族との積極的な交流を図ったり、外出、外泊の機会を設け支援するように努めている。	家族の協力を得ての外泊や外食、墓参り、馴染みの理美容室の利用などの支援の他、地域の図書館の利用や地元のスーパーへの買い物、家族が参加できるバーベキュー大会や敬老会、クリスマス会を行い、子供や孫、ひ孫がそろって賑やかに過ごすなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の心身レベルや性格に関わらず、利用者同士と一緒に生活していけるよう支援している。(散歩やレクリエーション、個別のレクリエーション等)		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院には面会に行ったり、家族とも連絡を取っている。又他施設に移られた場合も時に様子を伺うなど行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での利用者の言葉や行動で思いや意向の把握に努め、記録に残し、職員がその都度対応している。困難な場合は、家族にも相談、協力してもらい対応している。	日々の関わりの中での利用者の言葉や会話、行動を個人の生活記録に記録し、職員間で共有して、思いや意向の把握に努めている。1か月の記録は「暮らしのご様子」として家族にも送り、家族の理解と協力を得ている。困難な場合は本人の生活歴や家族の希望を聞き、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境などについて入所前に情報収集し把握した上で、スタッフ全員が会話、ケアに反映させるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの日常の過ごし方や心身の状態については、変化があれば随時連絡帳に記載し、検討を要すれば早急に対応できるよう支援している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意見を事前に伺い、本人の想い、主治医の意見、担当職員の意見、などを参考にサービス担当者会議の実施し、サービス計画書を作成している。サービス計画書に沿った実施記録を記入し、3カ月ごとにモニタリングしている。又利用者の状態に応じて見直しをしている。	本人や家族の思いや意向、主治医や担当職員の意見を参考にして、サービス担当者会議で話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、計画の期間に沿った見直しや状態の変化に応じた見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録として生活の様子、職員の気づき、ケアプランの実践を個人記録に記入している。現場に入る前に情報を共有し実践している。又記録に基づいて介護計画の見直しを行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時における病院受診の送迎や付き添い、火災時等の対応、外出支援等、同法人の隣接する施設と連携を図りながら支援している。又新たに入院等で空いた居室を社会資源として活用に取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する施設と連携を取りながら地域の各種ボランティアや団体と交流を図ったり、図書館へ本を借りに行くなど支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に本人や家族の了解を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、利用者に合わせて受診の支援をし、緊急時も受診できるように体制を整え、日中は法人の看護師の協力を得ている。又協力病院の科以外で急を要する場合は、家族の協力を得ている。	協力医療機関をかかりつけ医とし、受診の付き添いなど一人ひとりに合わせた受診の支援をしている。歯科は往診で対応し、専門医への受診は家族の協力を得て支援し、情報提供などを行っている。緊急時も受診に対応できるように体制を整え、日中は法人の看護師の協力があるなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の隣接する施設の看護職員の協力を受け、看護師の指示のもと必要な場合は、受診するなど支援をしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換を行う等連携に努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期対応の事例はない。契約時に重度化した場合の対応についてあらかじめ説明し、重度化した場合には、家族、協力病院と相談している。	契約時に重度化や終末期に事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族、医師、職員等関係者で話し合い、移設も含めて方針を共有して、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故防止マニュアルを作成して、職員会議で研修をし、職員全員が利用者一人ひとりの状態に応じた事故防止のための対応に取り組んでいる。又現場でのヒヤリハット、事故報告書を記録し、対応策を話し合い会議で検討している。緊急対応として、救急講習会にも参加し全員が対応できるようにしている。	ヒヤリハット報告書、事故報告書に記録し、対応策を話し合い、職員会議で検討して介護計画に反映するなど、事故防止に取り組んでいる。全職員が救急救命講習を受講し、緊急時対応マニュアルを基に、法人の看護師による個々の事例に対する実技指導や演習で、実践力を身につけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	市消防署の協力で、年2回の火災時の避難訓練や災害時の独自の避難訓練や地域消防団、地域の方を含めた火災避難訓練など同法人の隣接施設と連携を図りながら実施している。訓練終了後、消防署員の方からご指導頂き次回へ繋げている。	消防署の協力を得て年2回、利用者も参加して、地域消防や近隣住民、法人施設と連携を図りながら避難訓練を実施している。事業所独自で3、4ヶ月毎に火災や地震を想定した避難訓練を実施している。薬や緊急時連絡先などの利用者情報や災害時の職員の行動計画を作成し、避難の有無についての個室の表示、家財の固定、頭部保護にも活用できる腰座布団の着用などを実施している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議の中で研修を実施し、全職員が共有している。又ご本人への言葉使いに留意し、誇りやプライバシーを損ねるような対応をしないことを徹底して、プライバシーの保護や個人情報の取り扱いについても研修を重ね徹底して取り組んでいる。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いについて、職員会議の中で研修を実施し、全職員が徹底して取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や意思を聞く際、話される言葉を否定せず、最後まで聞いて差し上げ、状況に応じて意思を確認するように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースで過ごして頂いている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性に合わせて、おしゃれが出来るよう家族にも協力して頂き支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の管理栄養士の指導を受け、バランスを考えた三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は、買い物、調理の下ごしらえ、盛り付け、配膳、下膳、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。又職員も同じ食卓を囲み、同じものを食べ会話を楽しんでいる。	法人の管理栄養士の指導を受け、利用者の希望やバランスを考えた献立を作成し、三食とも事業所で手づくりしている。毎日の食材の買い物、調理の下ごしらえや盛り付け、配膳、下膳、食器洗い、台拭きなどできることを、利用者と職員と一緒に会話を楽しみながらしている。利用者と職員と一緒に食卓を囲み、食事を楽しんでいる。ボランティアと楽しむホットケーキづくり、お出かけ行事のお弁当やうどんなどの外食など、食事を楽しむ事の出来る支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の隣接する施設の管理栄養士の意見も参考にし、体調、健康等に配慮しながら実施している。又1日の水分量を個々に対し把握し、水分確保が難しい人は、お茶ゼリー、梅酒ゼリー、ポカリゼリーなど作り提供している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに口腔清潔支援を行っている。毎日のポリデントの実施、歯ブラシや義歯の清掃、保管の支援も実施している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄援助リスト表を活用して、個々の排泄用品や排泄パターンを把握し、職員が統一したケアが行えるよう取り組んでいる。	排泄援助リスト表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容の工夫と水分、適度な運動により自然排便を促しているが、それでも排便が困難な利用者に対しては、主治医に相談し対応している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、週3回入浴して頂いている。入浴に対して拒否があった場合は、身体清拭を実施、又散歩後や汗をかいた後などシャワー浴で支援し、入浴時間は出来るだけゆっくり入浴していただけるように努めている。	入浴は1日おきの午後に可能で、希望すれば毎日入浴できる。週に3回は入浴できるように声かけており、一人ひとりゆっくり入浴できるように支援している。入浴をしたくない利用者には清拭やシャワー浴などで対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の中の家具等を、本人の希望に応じて配置され、その時の個々に合わせたリズムで気持ちよく眠っていただけるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医からの指示や薬の説明書をファイルし、保管確認し対応している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ADLの低下や加齢により参加できる利用者が少なくなりつつあるが、テレビ視聴、新聞や本を読む、テレビ体操、園芸、食事の準備、洗濯物干し、洗濯物たたみ、クロスワードパズル、塗り絵、ジグソーパズルなど個々に応じて様々に活用できる場を提供し、生活を楽しんでいただいている。	テレビ視聴、新聞を読む、読書、漢字ドリル、計算ドリル、クロスワードパズル、手芸、習字、自分のプランターに野菜や花を植える、水やり、草取り、収穫など、個々に応じた楽しみごとの支援をし、洗濯物干し、洗濯物たたみ、調理の下ごしらえ、配膳、下膳、洗い物など、活躍できる場づくりをして、張り合いのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季に応じて時間帯を変え、その日の身体状態や本人の気分を十分に配慮しながら毎日散歩に出かけている。又花見や紅葉を見に外出、買い物に行かれたり、家族の面会時にも外出の機会を設け一緒に外食、外泊等していただいている。	利用者の体調や希望にそって、毎日散歩に出かけたり、食材の買い物、図書館、季節の花見、ぶどう狩り、紅葉狩り、公園などに出かけている。家族の協力を得て、外出や外食、墓参りやなじみの場所への外出、自宅への外泊など、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額の金額を預かり、ドライブ等に出かけた際に、買い物や飲み物の代金をご自身で支払っていただき、職員は見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により電話でのやりとりや、利用者が葉書に文面を書いて送るなど、やり取りが出来るよう支援をしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファや畳を設置し、畳のスペースには、テレビ、座椅子があり、玄関や洗面所には季節の花を飾り、壁には月々の掲示物や行事の写真、利用者の作品を飾ったり、又夏の日よけには、カーテンの替わりにすだれや植物を植えるなどし、季節感を出すように工夫している。	共用空間は温度や湿度、換気、明るさも適切で、壁面には季節の飾りや行事の写真、利用者の作品を掲示し、玄関周りには季節の花や野菜を植えている。食堂を兼ねたリビングからは厨房の調理の様子や音や匂いがして生活感を感じることができる。畳スペースではテレビを見たり、団欒や昼寝をしているなど、利用者一人ひとりが思い思いに居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室と食堂、ソファ等を活用し、思い思いに過ごしていただいている。また一人で過ごしたい方は、居室に戻られ過ごしておられる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前の訪問時に予め居室の間取り等を確認していただき、自宅で使い慣れた家具やベッド、布団など持ち込んでいただいている。利用者からの要望については、家族と相談、配慮を行っている。	利用者は自宅で使い慣れたベッドや布団、小物類、お仏壇、お気に入りの人形などを持ち込み、家族や孫の写真や歌手のポスターを飾るなど、その人らしい居心地の良い部屋づくりをしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物においては、安全に配慮した環境となっている。しかし浴室については、利用者の身体状況が重度化した場合には、使用が難しくなるものもあり、改善の必要となる箇所もある。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム錦

作成日: 平成 26年 12月 1日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		地域へ出向いて行き、交流を図る機会が多いが、参加できる利用者が限られている。	利用者全員が、地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流していく。	1.利用者の心身の状況や身体機能の状況を踏まえ、参加できない人には、個別ケアで支援し、その中で家族にも相談、協力してもらい利用者全員が参加できるようにしていく。	平成26年 12月～
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。